

母性看護学実習Ⅱ	3年・後期	1単位	准教授 西川 明美 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210813

1. 授業のねらい・概要

周産期にある母子とその家族を対象に、個々の健康ニーズを把握し、健康の保持増進、健康問題や健康上問題を解決する援助方法を学び、母性看護の基礎的能力を養う。

2. 学修の到達目標

1. 妊婦、分娩、産褥期の母子の健康状態を評価し、必要な援助が理解できる。
2. 母子を取り巻く家族関係を把握し、家族関係再構築のための援助を考えることができる。
3. 育児支援の社会資源、ソーシャルサポートについて理解し、援助を考えることができる。
4. 正常な経過を逸脱した妊娠、分娩、産褥期の母子の健康問題について考察できる。
5. 医療チームの一員としての看護職者の役割を理解し、専門職としての態度を養うことができる。

3. 授業の進め方

実習要項参照

4. 授業計画

1. 実習期間：平成31年1月～3月の間で1週間の実習を行う。
2. 実習施設：佐藤病院、横田マタニティーホスピタル、高崎総合医療センター
3. 実習内容：実習要項参照

5. 成績評価の方法・基準

3分の2以上の出席を条件とし、実習状況・実習記録を合わせて80%、知識確認試験20%で、総合的に評価する。ただし、実習と知識確認試験は、それぞれ60%以上得点すること。

6. テキスト・参考文献

テキスト：森 恵美他（2018）：系統看護学講座 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院
横尾 京子他（2018）：ナースンググラフィカ 母性看護学② 母性看護技術第3版 メディカ出版
太田 操（2017）：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 医歯薬出版
参考文献：講義で配布した資料、その他の参考文献は実習中に随時紹介する。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な内容

事前学習として、産褥・新生児の身体のおくみと異常およびケアに関する課題をポケットサイズのノートに実習開始前までにまとめ学習しておく。

実習開始前までに、技術演習を1時間以上復習し実習に臨むこと。

8. 受講上の留意事項

先修条件：母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱを履修していること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は、教員が内容を確認して返却する。
ただし、実習記録物は返却しない。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。